

エンドウ (マメ科)

キヌサヤから実エンドウまでを組み合わせると、4月中旬から6月上旬まで収穫できる。

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
サヤエンドウ				収穫	■					播種	○	
スナップエンドウ					■						○	
実エンドウ						■					○	

1) 適地

日当たりがよく、排水と保水のよいところが適します。連作はできませんので、必ず7～8年作付けされていない場所を選びます。

2) 品種

サヤエンドウ：キヌサヤとも呼びます。若どりした莢を食べます。つるなしの品種も出ています。

例) 成駒、仏国大莢、絹莢

スナップエンドウ：実が太り出したものを莢ごと食べます。

例) スナックエンドウ、ジャッキー、グルメ

実エンドウ：むき実用品種、グリーンピース。食べるのは未熟の太った実です。

例) ウスイ、白竜、久留米豊

3) 作り方

【圃場の準備】連作障害が発生しやすいので、7～8年間作付けしていない場所を選びます。あまり早く播種すると年内に大きくなりすぎ、冬の寒さで障害が発生しますので、10月下旬～11月上旬頃が播種の適期です。連作の問題などで年内には場所がない場合は2月になってから播種することもできますが、収穫時期は遅くなり収量も少なくなります。播種1か月前に1㎡当たり堆肥1kg、苦土石灰100g、ようりん60gを施し、深く耕します。未熟の堆肥や発酵がすすんでいない鶏糞はタネバエを呼ぶので施用しません。播種の1週間前に緩効性肥料を1㎡当たり40g施して幅150cmの畝を立てます。雑草防止のためにマルチをかけてもかまいません。

【播種】日当たりをよくし、莢つきをよくするためには必ず1条播きにします。株間を15cm、1か所2～3粒ずつ播種します。覆土は2cm程度です。寒さが厳しく、強い北風に当たる場所では防寒対策として、北側に防風のワラを立てたり、株元にモミガラを敷いて、風で飛ばされないように軽く土をかぶせたりします。

【整枝と誘引】3月中下旬からつるが伸びだし



発芽したエンドウ

てくるので、1株に3～4本となるよう、弱いつるは地際からハサミで切り取ります。

整枝後は支柱を立てて誘引します。竹の枝などがあればつるをからませるのに最適です。なければキュウリネットを使ったり、稲ワラを吊り下げたりしてつるが取り付く場所を作ります。さらにつるが1m以上に伸びてきたら、つるが折れたり垂れ下がったりしないように、つるの外側に紐を張ります。両側から挟むようにキュウリネットを使ってもよいでしょう。



支柱の立て方の例

【追肥】追肥は圃場1m²に1回当たり高度化成肥料20gを施用します。最初の花が咲いた頃に1回目、収穫が始まった時に2回目を、収穫中期に3回目を施用します。

【収穫】

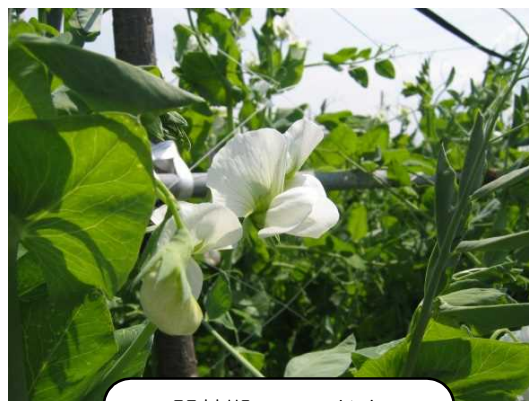
サヤエンドウ：種子が太らないうちに収穫します。穫り遅れると莢が硬くなり、スジっぽくなります。仏国大莢は種子が少し太った頃に収穫します。

スナップエンドウ：実が太り出したら収穫します。莢ごと食べられますが、遅れるとスジっぽくなります。

実エンドウ：莢が白くなったら収穫します（ウスイ）。莢が小さいうちは、キヌサヤとしても食べられます。

4) 病害虫防除

連作しなければ致命的な病気はありませんが、うどんこ病がよく発生します。枯れてしまうほどの被害ではありませんが、後半には株全体が白くなって弱ってしまいますので、薬剤による防除を行います。また、アザミウマ類やハモグリバエ類の被害も多いので発生初期に防除を行うようにします。



開花期のエンドウ